

我孫子市文化財保存活用地域計画協議会（令和6年10月15日）議事録

<出席者>

古内新一委員、中村孝行委員、福田晶子委員、河合真吾委員（企画政策課）、藤代健一委員（秘書広報課）、秋田芳博（商業観光課）、辻史郎委員（文化・スポーツ課）

<欠席者>

白水智委員、栗原祐子委員、森田康宏委員（鳥の博物館）、

<文化・スポーツ課>

菊地統部長、永田正三課長補佐、今野澄玲係長、手嶋秀吾主任、柏瀬拓巳主任文化財主事、稲村隆主任学芸員

<千葉県教育庁 文化財課>

大内千年副課長

事務局

定刻になりましたので会議を始めます。

本日はお忙しい中をご出席いただきまして誠にありがとうございます。

令和6年度第1回我孫子市文化財保存活用地域計画協議会になります。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは我孫子市情報公開条例第22条に基づき、本会を公開するにあたりまして傍聴人について報告いたします。傍聴人の方は3名いらっしゃいます。傍聴の許可をしてよろしいでしょうか。

委員

了承。

事務局

それでは入室をお願いします。

傍聴人の方に申し伝えます。傍聴要領に従って、傍聴していただくよう、よろしくお願いいたします。それでは会議を開催するに当たりまして、菊地生涯学習部長からご挨拶申し上げます。

部長

この度はお忙しいところ、本日の会議にご出席いただき、ありがとうございます。

今日の協議会は今年度第1回目です。今年度は保存活用地域計画の折り返しの年になっているので、計画の中間報告を中心にご報告させていただきます。

今年度上半期は、前年度に引き続き施設の充実を図っています。白樺文学館での照明工事を行うため夏から臨時休館し、11月1日から新たに企画展をリニューアルして開館します。

併せて資料の収蔵場所として前年度ご見学いただきました湖北の旧ヤング手賀沼を収蔵施設として活用できるように現在工事をしています。他にも収蔵場所を広げるた

めに、庁内連携を図って随時情報収集を行っています。

文化財の活用の方面では、8月に文化財ボランティアの研修を行い、今月末に第1回の総会を行う予定です。今まで旧村川別荘のみで行っていたボランティアガイドを、今後は杉村楚人冠記念館、白樺文学館、旧井上家住宅でも行う予定です。

同時に資料整理のボランティアを募集しましたところ、20人以上の方のご応募があり、こちら動き出していきますので、今後、資料の整理が完了次第、ネット公開も行っていきます。また、ネット公開事業に関しては、市民図書館でも電子図書館システムが10月から始まり、サイト内で我孫子市の貴重な古文書等の資料が公開されています。

本会議では3年間の総括また次年度以降の方針を再確認するために皆様のご意見等をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

少しお時間をいただきまして、皆様の机上に我孫子電子図書館サービス開始の告知をお配りしています。こちら我孫子電子図書館のホームページには我孫子デジタル郷土資料館というサイトがあり、ふるさと手賀沼、いろいろな歴史資料といったようなコンテンツが紹介されています。

事務局

ウェブサイトにつきましては、地域計画で進めている「あび☆デジ」がありますが、そちらのサイトではあくまでも資料を原本でしか見ることができません。そうすると対象者が主に研究者、調べ学習の方が中心ですが、図書館サービスの対象者は様々であり、気軽にクリックしていただくサイトになりますので、原本と翻刻（そのくずし字を活字化したもの）を併記して見られるような仕組みになっています。

ただ、こちらのビューアーはとても技術的なつくりをしているので、私達の方でまず我孫子に関する方々とか、手賀沼に関する大切な文書等、選りすぐりの数点を抽出し、気軽に古文書に触れていただける環境を図書館の方で作り、興味を持ってもらった後、図書館にあび☆デジのリンクも一緒に掲載しているので、詳細を調べたい方はあび☆デジを見てもらえる仕組み作りを行っています。

部長

事務局から説明差し上げましたように電子図書館サービスが10月1日から開始されております。ぜひ皆さんも一度内容の方を見ていただきたいと思ひまして宣伝をさせていただきます。

ちなみに、こちらの方の登録を済まされていない方につきましては、こちらに必要な事項を記入して、それで図書館に行って自分の証明ができるものを用いていただきますと、その場で図書利用カードが配布されますので、そこに書いてあるIDとパスワードを設定していただいて、先ほど話したようなビューアーだけではなく、中の細かいところまで飛ぶような形になりますのでぜひご活用いただきたいと思ひます。お時間いただきましてありがとうございました。以上です。

事務局 続きまして本日は千葉県における文化財保存活用地域計画を統括されている千葉県教育庁文化財課より大内副課長にオブザーバーとしてご参加いただいております大内様一言ご挨拶をお願いします。

大内副課長 千葉県教育庁文化財課の大内です。我孫子市文化財保存活用地域計画は令和2年12月に県内で初めて認定され、今年度で4年経過し計画が進んでいると思います。

特に誘導板・案内板の設置、旧井上家住宅の整備などで、その成果が目に見える形になってきているのではないのでしょうか。

本保存活用地域計画につきましては、文化・スポーツ課所管の担当部署だけでなく、我孫子市の関係機関が策定当初から一体となって計画を進めておられるように見受けられる点を評価しています。

現在、県内の隣接する流山市や柏市でも保存活用地域計画の策定が進んでいるところですので、県内の他自治体の手本となるよう、このまま継続してください。

引き続き我孫子市の文化財が本計画に沿って着実に保存が図られるとともに、我孫子市民にとってより身近なものとして活用が図られることを願っております。

事務局 大内様ありがとうございました。それでは議題に入りたいと思いますので、古内会長、よろしくお願い申し上げます。

会長 まず資料の確認を事務局からお願いします。

事務局 資料の確認をいたします。今回は事前に郵送させていただきました資料1我孫子市文化財保存活用地域計画の中間評価になります。

会長 それでは事務局から資料について説明をお願いいたします。

事務局 では資料をもとにご説明します。今年度は計画の4年目にあたるため、年2回進捗報告を行っていますが、改めて中間評価として取りまとめました。

これは計画の変更を行う場合、文化庁への報告も必要となるためです。

こちらの中間評価について、本会でご意見をいただき、次回の協議会で承認をいただくよう計画をしております。

現状の整理のため15ページの主体事業に関する成果と課題について今回読み上げます。

まず、前期計画の成果についてですが、調査研究指定などの通常業務は滞りなく進んでおります。なかでも国登録文化財の件数の増加、布佐南小学校の空き教室や湖北にある既存の建物を改修して収蔵庫として利用するなど、空きスペースを有効活用した収蔵庫の増設、文化財カルテ作成のため、文化財のデータベース化が進んだことに

より、資料検索サイトあび☆デジの立ち上げ、インターネット上の公開を行うなどが達成した事業として挙げられ、文化財の保存に関する取り組みが進んでいることがわかります。旧井上家住宅の保存と活用については、布佐地区全体での観光拠点、賑わい作りを目指して、令和6年度から庁内の検討委員会を立ち上げました。

文化財の活用に関しては説明板・案内板・誘導板の設置を県の補助金を活用しながら計画を立て、実行しています。そのなかでも説明板を新規に設置する際には、市のホームページに繋がるQRコードを掲載し、説明板の解説の補足を行っています。

次に2の後期計画の成果についてですが、保存事業に関しては収蔵庫の増設などはできたものの、収蔵している資料の展示する場所が確保できていない状況です。現在、我孫子地区公民館アビスタや水の館内の空きスペースに展示ケースを持ち込み、考古学の資料や民具などを展示しています。併せて旧井上家住宅の母屋・新土蔵に展示ケースを設置し、旧井上家住宅の資料を展示することを本年度より開始いたしました。これらの公開事業を通して、将来的には博物館の設置や白樺文学館のリニューアルができるよう呼びかけていきます。

あび☆デジについては、公開はできたもののアクセス数がまだなかなか伸び悩んでいるため、その資料の説明文の追加や写真の掲載など、活用しやすい情報公開を目指すとともに、教育現場への周知などにも力を入れる必要があります。また、先ほどご紹介しました図書館でも電子図書のシステムを導入するため、あび☆デジのリンクを誘導するなどの連携を進めています。

市民団体への働きかけは前期計画で進められたものの、民間事業者との連携は単発的に行ったイベントに限られています。また、まだ関係構築はできていないと判断していますので、後期も引き続き進めていきます。

次に、昨今では人件費、物価が高騰してきたため、施設の整備には多額の事業費が見込まれている状況です。このため、国県の補助金、市民や企業からの寄付金、ふるさと納税などでの積極的な活用が求められておりますので、地域計画を進める上で、情報収集やホームページ、SNS、講演会などで情報発信を行っていきます。

今回の中間評価について、とりまとめた結果を3月の協議会でご報告いたしますので、ご質問ありましたらご意見いただければと思います。以上になります。

会長 それでは協議に入りたいと思います。委員の皆様からご質問あるいは、ご意見いただければと思います。

福田委員 いくつか取り組み期間になっているもののうち、実行を示す黒い矢印がついおらず、評価がCとなっているものがあります。評価Cの理由を教えてください。

事務局 評価Cの事業については、なかなか予算化ができない大きい事業になります。これらの事業に関しては、補助金とかそういったところも視野に入れながら長期的

にちょっと取り組んでいく必要があるかなというふうな事業になっています。

他には学校や民間事業者など、外への連携ができていない状況ですので、後期に実績として報告できればと思っています。

中村委員

今回報告書を見て収蔵庫の方は確保できていることがわかりましたが、これからも文化財が増えると、収蔵も大変だと思います。新聞報道でも収蔵する資料の内容の精査と収蔵量について問題になっていると読みました。このことからある程度整理する必要があると思います。

一つはデジタル化、これは我孫子市でも進んでいると評価していますが、デジタル化が進んだことによる欠点として、すぐに見られる分、実際に体験する機会が少なくなってくると思いますので、ある程度デジタル化と同時に物に触って使えるということも必要かなと思います。我孫子市の状況を考えると、博物館が必要と考えながらも、デジタル化は進めた方がいいと思います。

あともう一つは、物を収蔵するのも限界があるので、捨てることも必要だと思います。ある自治体で文化財の破棄を決断したそうですが、その際は廃棄する基準を作ったということが載っていました。我孫子の場合は、地域計画のなかで自分たちの生活・地域にとって何が重要かという基準が、ある程度作られているので、収蔵に対する限界と、文化財に触れられるような場所を作るよう進めて欲しいです。

辻課長

最近新聞に載っていましたが、民具などの取り扱いについては、自治体で非常に頭を悩ましています。記事では、収蔵して終わりではなく、活用する視点、それから、昔のものという考え方でなく、今の視点から見たときに、美術品やデザイン性をどう捉えられるのか、様々な見方で評価や見直しが必要だと書かれていました。民具は湖北地区公民館の横にある収蔵庫に入れる予定ですが、私達としても今連携を進めている長寿大学、小・中学校もすぐそばにあるので、収蔵庫内を見ていただいたり、民具に触っていただいたりするようなイベントを考えています。

担当者として郷土資料館を作りたいという気持ちはありますが、今の状況では難しいので、当分はデジタルと、アナログを併用しながら進めていきます。

あと、評価Cについてですが、大きく分けて2種類あると自己分析しています。一つはハード整備など、条件が揃わないとできないもの、あと、先ほど事務局から話が出ていましたが、地域連携など、要は一步踏み出して情報発信をすることに関しては少し積極的に取り組んでもよかったと思います。ただ、相手があつてのことでもあるので、効果的な情報の提供先に関しては、試行錯誤する必要があるかと思っています。ある程度デジタルの情報も蓄積され資料が充実してきているので、後期に関しては積極的に情報発信を進めるべきと考えています。

中村委員

事業を始めることで価値が出ることについては、この計画のなかでも考えられてい

るので、心配していません。一方、例えば文化圏は現代の行政区分よりも幅広く、縄文・弥生・明治時代、地域はもっと広い範囲だと思うんですね。これを考えると近隣の地域との同じ時代の事象の共有が、他団体・他行政との連携に繋がるのかと思います。

以前、取手市で明治維新の時、維新の志士が活躍したとの話があり、我孫子市でも、同時代・同背景のなかで、取手と我孫子の同じこと、違うことを比べると、広がりが出てくるかと思います。行政の枠を超え、我孫子市の近隣で考えたなかでの文化財の保存活用を、一つの連携のなかでできると良いと思います。

私が属している国際交流協会は、東葛地区で一つの協議会を作っていて、柏・松戸・流山などと情報を交換しながら、連携を図っています。協議会では、外国人が生活する上で災害の情報伝達をする際、行政だけでは担えないこともあるため、近隣住民のネットワークの活用も大切であるため、連携をどのように図るのかを考えました。文化財についても、行政の枠を超えた取り組みが必要だと思います。

辻課長

私どもは千葉県北西部地区文化財担当者連絡協議会という地域連携の協議会があり、各市で共通する話題やテーマで研究・発表・展示に取り組んでいます。その際、問題の共有や、他市の展示方法・活用方法・取り組み事例を勉強しています。今後、情報共有を進めていきたいと思っています。

他に担当者レベルの話ですが、柏市とは手賀沼を巡って同じ生活文化でしたので、展示や柏にある染谷家住宅と旧井上家住宅とを連携させた歴史的建造物の活用も図っていきたくて考えています。

先ほどの話の内容で文化財の廃棄に関しては、難しいところもあります。例えば、今、この時代の価値観で評価をして、不要なので破棄してしまっているのかという議論です。例えば寄付・寄贈の希望があったとき、現在収蔵しているものと同等品があった場合、収蔵できる限界もあるので、全部寄贈を受けるのではなく、例えば写真で撮って記録し、取捨選択をするケースもあります。効率性を求めて捨てることのできるのかというと、なかなかちょっと判断に迷うところはあります。

会長

柏市の染谷家住宅が柏駅からバスツアーが出ると。知り合いが染谷家の改築に携わっていました。手賀沼、計画では、水の物語です。その水の物語の一つで、中村委員からも取手の話が出ましたが、連携していく。北西部での協議会も必要だと思いました。連携が必要だと思いますが、先ほど評価Cとありましたが、いわゆる物語四つのうち、Cが目立つのがまちの物語です。まちにあるものでは白樺文学館・杉村楚人冠記念館が比較的多く項目として挙げられていますが、観光の視点から広めることができなんでしょうか。商業観光の面からいかがでしょうか。

秋田委員

このCについては、施設の改修や新設で、なかなか大きな事業だと思います。商業

観光課の立場から、広域連携を踏まえますと、我孫子市側だけでなく、柏市の観光の計画のなかで手賀沼が観光資源と位置付けられています。そこで、柏市、印西市とも連携しながら進めていく予定です。我々の方は交流人口の拡大を見据えた観光・商業を目指しているなかで、手賀沼周辺に観光施設誘導方針に基づいて観光客を呼べるような地域仕様、3市で連携するプロモーション活動をしています。例えば、10月から3市周遊デジタルスタンプラリーを行っています。これは、各市で文化財施設や商業施設をチェックポイントとして選び、携帯電話にスタンプの台紙機能を入れまして、歩いて回ってスタンプを貯めていただくイベントになります。このイベントは昨年引き続き行っています。他には商業観光課の計画のなかにあるまち作り委員会でも我孫子だけでなく手賀沼の対岸の柏市とも連携が必要だとのご意見も出ましたので、柏の観光部局の方に委員さんと一緒に行って、柏の街作り観光に関する計画事業について、意見交換をする場を設けています。柏市からも柏市でやっているイベントを我孫子と連携したいとの打診もあるので、今後取り組んでいこうと計画しています。

また、手賀沼手賀川活用協議会は企画政策課が担当ですが、手賀沼を中心にした広域連携を考えています。

河合委員

手賀沼活用協議会については、企画政策課が担当です。広域連携するなかで文化財も絡めて広げていくことは取り組んでない状況です。企画政策課は全庁的な予算編成担当する部署ですが、今回Cがついている事業のなかで文化・スポーツ課の方でいろいろ取り組んでいるなかでも事業化が進まない一つの要因としては、市の財政状況がそれを許さないという事情も多々あります。そのなかでも一番積年の課題であった文化財の収蔵スペースの確保、施設の老朽化対策として白樺文学館の照明設備の改修を進めています。市行政が行うべき事業の優先度を考えたとき、市民の皆様の関心の高さも事業の優先度を考える上で必要になってきます。例えば日々子育てに追われて余裕がなく、目の前の生活に追われているようなときに、文化財を重んじるような気持ちが生まれません。普段生活している上では、市民の方の関心としてはインフラや、子育て政策充実などの優先度が高くなります。そのなかでも本来は市の魅力作りのなかで、皆さんの関心が高まれば事業の優先度も上がってくると思います。この資料の15ページの最後にも記載されていますが、昨今、人件費・物件費が高騰しているなかで、文化財の推進に向けて事業を進めるには様々な事業費の確保の工夫も大切な視点になります。企画政策課の立場としては推進する気持ちもありますが、全体の事業のバランス取りのなかでは、文化財に多額の費用を投じていくことは難しい状況です。それでも地域計画を推進する上では、市民の皆さんの関心をこれまで以上に高めて少しでも優先度が上がるような取り組みが必要になると認識しています。

会長

やはり企画政策課とすると、予算が関わってくるので、市民の要望によって事業が優先されます。果たして文化財優先されるかが難しいですね。あとPRの話が出まし

た。広報という立場からはいかがですか。

藤代委員 文化施設の宣伝については、広報の立場から言いますと、文化・スポーツ課と連携してPRすることは重要だと思っています。

この間、布佐にある榎本住宅の国登録文化財の情報を文化・スポーツ課から受け取り、広報でプレスリリースしたことにより、新聞に取り上げられ反響がありました。新聞は無料で記事になってたくさんの方が見てもらえる。ネットも大事ですが紙媒体で残ることも重要です。今後も限られた予算のなかで、文化・スポーツ課としっかり連携して様々な情報発信をしていきたいと思っています。

会長 アビスタ図書館に行くと、観光大使である塙さんがテレビで我孫子の魅力の話をしていますが、観光大使の活用というのはいかがですか。

藤代委員 毎月1回ナイツ塙さんが我孫子市のふるさと大使として、広報動画を配信しています。年に2回、市内収録を行っています。旧井上家住宅でも収録しますので、ぜひ、見ていただければと思います。

福田委員 中間評価がAのものについてお伺いします。保存に関しては、評価がAであれば、その取り組みが進んでいるということだと思いますが、活用の面では、取り組みは進めているが、実際に活用されているかの評価はどのような方法で行っていますか。例えば来場者アンケートで活用についての意見を聞いていますか。活用方法の見直しというのは今後される予定はあるのでしょうか？

事務局 旧井上家住宅に関しては動き始めたばかりなので、イベントでは参加者にアンケートをお願いして、今後体験してみたいイベント等をヒアリングしています。また、杉村楚人冠記念館・白樺文学館は来館者アンケートを行い、感想やご意見をまとめているので、アンケート結果をみて参考にしたいと思っています。

会長 8月にボランティア養成講座があり、自分も参加しました。20数人、それぞれの施設でボランティア活動を行うとのことですが、このボランティアの方を今後活用していくなかで、課題・展望などがありますか？

事務局 今年の8月に第1回目の文化財ボランティアの養成講座を開催しました。
こちらボランティア養成講座につきましては、施設のガイドをしていただくガイドボランティアと、市の古文書・民具などの資料の調査をお手伝いしていただく資料調査ボランティア。こちらの2種類のボランティアの方を対象に養成講座を開催し、今回どちらも20人前後ご参加いただいて、合わせて40人ほどご参加いただきました。

また、先月9月には、施設のガイドをご希望されているボランティアの方たちを対象に、現地での研修を行いました。

あわせて、今月の月末に文化財ボランティアの総会を開催する予定でして、その際に今後、施設のガイドをしていただく方たちについては、取り組み内容を決める予定です。それも踏まえて12月以降にガイドボランティアをPRしていきます。

藤代委員 中間評価Aで伺います。前期の計画の成果の最後の段落で説明板・案内板・誘導板、こちら全て中間評価がAとなっています。案内板・誘導板の設置ですと、来訪者の回遊性増加を見込んで作っていると思うのですが、実際どのような物語を意識して作ったのか、あと、説明板ですとQRコードの掲載が成果に書いてありますが、事業内容としてはARなどの先端技術ということで、動く動画などを活用すると書いてあるのですが、それを成果としたことにするのか、2点お願いいたします。

事務局 案内板誘導板に関しては、基本的に建てる上で、物語にまつわる我孫子遺産を案内することを目的にしています。あわせて、誘導板についても案内板を意識して設置しています。

ARに関しては、検討はしましたが、今後取り入れた後のランニングコスト化を考えた場合、技術の更新にお金がかかっていく懸念があります。当初は取り入れたかったのですが、難しいと思い、代替えとしてデジタル的なツールを使って皆さんに広く多くの情報を知っていただくという時にQRコードを使い、市のホームページに繋げ、説明板では得られなかった情報をホームページ上で読んでいただけるように取り組みました。

藤代委員 ARですとデータが重くなりますし、サーバーの費用もかかると思いましたので、広報と一緒にホームページでうまくPRできていければいいかなという面と費用面も考えながら検討していただきよかったです。

会長 一度会議でも話題になりましたが、市民が散策したときに、適した途中の休憩場所なども広報あびこのなかで案内するのもよいかもしれませんね。

私もこの会議に関わって、他の地域を訪れた際、パンフレットをよく見るようになりました。ある場所では、案内パンフレットが日本語と英語と韓国語バージョンがありました。案内板の言語に関しては、多言語化と言われていますが、我孫子ではどの言語が必要なのでしょうか。あと、入場者が多くなく、収益もあまりない文化遺産を維持することは大変です。我孫子のこれからの文化遺産の方向性は皆さんいかがでしょうか。ご意見あればお願いします。我孫子にも外国人の方が住んでおられますが、国際交流の立場から、外国の人たちを我孫子遺産に引き込む方法ありますか。

中村委員 確かに外国人は増えています。人口に占める割合も3%ぐらいになって、これからも増えると思います。前から住んでいる方もいますが、生活に余裕がない方も多いです。外国人たちに対して、日本の文化や我孫子の文化を伝えてはいます。どちらかというと日本文化に対する関心の方が強いです。手賀沼近辺に住んでいる方は身近な手賀沼のイベントに参加しているので、関心を持っている方がいます。日本に来て間もない方は生活するための仕事の方に関心が強く、文化面に対しての関心がまだ薄いです。

会長 学校からの講師派遣などの依頼はありますか？

特に小学校の場合、3年生が社会科の学習で校外学習として我孫子市内をバスで回ります。学校での授業の中として、文化施設の案内の依頼がありますか？

事務局 年に2、3回はあります。文化・スポーツ課を知っている先生だと気軽にお声がけいただいています。あとは第一小学校ですと歩いていける圏内に文化財があるので、案内は恒例となっています。

小学校によってはバスを使って学校から離れた文化財施設を回ってくれます。主に旧井上家住宅になります。旧井上住宅ですと古い道具もあるので、民具などを実際に触って体験できる機会をつくっていましたが、展示ケースを旧井上家住宅に設置したため、ガラス越しでの見学に変わりました。いままで見学の都度民具を出していましたが、私たちが立ち会わなくても見学していただけることになりました。

会長 他に何かありますか？我孫子電子図書館の件は子供たちにも広まっています。

事務局 小・中学校は授業中、デジタル書籍を見られるようなシステムになります。手元で子供たちが気軽に本を楽しめるので、併せて歴史資料も広がってほしいと思います。今回、図書館の方とも話したのが、古文書と翻刻だけだと、この古文書は何を伝えたいのかわからないので、資料解説をつけるようにして皆さんに興味を持ってもらえるような取り組みをしています。

中村委員 文化財の保存活用のなかで、ボランティアの育成と活用が大きな比重と私は思っています。個人的には8月からボランティア養成講座も開いているとのことで、これから順調に拡充してください。ただ、今後時間が経つとだんだん減ってくる可能性もあるので、範囲を拡充することも考えてもらいたいです。例えば資料調査ボランティアでは古文書の読み方をフォローする必要があるかと思います。また、子供たちから成人まで幅広く伝えることで、関心を持つきっかけになるかと思います。そうすると、ボランティアの参加が増えるのではないのでしょうか。

事務局

ボランティアについては、今回8月に養成講座を行う際には、まずホームページ、それから広報で周知しました。それに加えて、文化・スポーツ課で出前講座した長寿大学や、市民団体の方にも事前にお知らせしました。

文化・スポーツ課としましても、始まる前はどれくらいの方が興味持って参加していただけるか把握していませんでしたが、今回幸い多くの方にご参加いただいて、大変良かったと思います。講座につきましては、今のところ毎年2回開催を考えています。そのたびにホームページと広報等で周知する予定です。

今後、周知のなかで、参加者が少なくなった場合、中村委員がおっしゃっていたように、講座の前段階としていわゆるワークショップをイベントとして行い、興味を持っていただく層を増やしていく取り組みも必要だと思います。

そちらについては、新しいボランティアの方たちとも一緒に取り組んでいきたいと考えています。

会長

減っていくのではなく、人づてに増えていくような、工夫があるといいですね。他いかがでしょうか？

福田委員

ボランティアの方は、想像するに、現役世代の方や学生さんではないのかなと思いますが、いかがでしょうか？

事務局

今回参加していただいている方々の年代は、多くはいわゆる現役ではなく退職された後の方が多いんですが、一部、まだお勤めされている40代とか30代の方もいます。

幅広い年齢層の方にご参加いただくために、今回8月に講習会を行いました。学生さんも夏休みで参加しやすいかと開催しましたが、少なかったので、今後はあまり参加していない年代へのアプローチも考えていきます。

福田委員

学生さんですとかだと通年の活動は難しいと思いますので、お子さんたちのボランティア体験なども含めて、スポット的に夏休みだけの1回限りなどでも機会も増やしていただけると、いろんな方に興味持ってもらえるのかなと思います。

会長

構成的には男女比には差がなかったと思いますが、大学生は少なかったです。ウィークデーの真ん中だったので、現役世代の参加は厳しいと思いましたが、若い方もおられて、将来が楽しみだと思いました。

先日の新産業まつりに行ったとき、移動図書館が出ていて、小学生が司書の体験学習をしていました。小学生が男女関係なく本の貸し借りなどの司書体験をしていました。子供たちについても小中学生、夏休みの期間などの長期休業期間のなかで職場体験ができると興味をもっと広がるのかなと思いました。

河井委員

先ほどの話と重複するところがありますが、なかなか衣食住が確保できないような人だと、なかなか文化財まで目を向ける余裕がないと思われますし、またそれが我孫子市としても財政状況を鑑みながら、市民の生活に目を向けると、衣食住を確保するために、絶対に行う必要があるインフラの整備や子育て世帯への支援、学校・公共施設全体も老朽化が進んでいます。また、人命に関わる消防力の強化、建物の安全安心な管理など以外に回すお金が今なかなかないような厳しい財政状況にあります。その中で夏には湖北小学校の体育館が火事になるなど、優先度高い事業が出てきてしまう状況があります。

文化財の維持と活用が大きい二つの課題だと認識していますが、少なくとも貴重な文化財を後世に伝える必要があるため、維持継承といった観点で言えば、少しずつですが、収蔵スペースの確保、建物の改修老朽化対策を行っています。対して活用の部分に市として金銭的な注力は難しい状況ですが、維持をする上でも文化財を活用して、市民の皆さんの関心を高めることにより、優先度の高い事業となります。ただ、意識を醸成するために、活用のための資金繰りは難しい状況です。なかなか好循環を生み出せない状況ですが、維持と活用は両輪で、本来は取り組むべきところで、ただ活用になかなか投資ができないところが現状課題だと感じました。

この現状のなかでも活用を図る必要があるので、現実的にはコストをかけずに工夫をして、例えばボランティア活用を図る、市民の関心を高める。高齢の方はボランティアに取り入れやすいとは思いますが、さらに活力ある賑わい作りに繋がるためには学生ボランティアが喜ぶ、関心を持つ仕掛け作りを、アイデアを出す必要があると思います。例えば旧井上家住宅の活用にあたっては、学生さんも参加してもらえるような、ちょっと魅力的なイベントをコストはかけないで計画して、そのイベントを情報発信してもらい、少しずつ文化財に対する若い世代の関心も取り込んで、機運が高まってくると、事業の優先度も高まるというような好循環に繋がればと思いますが、まずそこに繋げるための最初の一步の活用に対しての仕掛け作りが求められてくると思います。

部長

厳しい財政状況のなかで、旧井上家住宅でトイレの整備を行い、今後活用できる方が増えていくと考えています。整備と活用は一蓮托生ですが、ある程度整備しなければ人は呼べない、活用できないと思います。企画政策課や財政課から補助金の話もありますが、自らも何か取得できる方法はないかというのは常に考えています。

今年も部内でもふるさと納税を増やせないか、クラウドファンディングの利用、ミュージアムパートナー制度、メルカリと連携し販路の拡大の検討をしています。実際に文化・スポーツ課でもクラウドファンディングで相当のお金が集まり修復を進めることができました。一気に何億円の寄付は難しいですが、一つずつ場所を決めて修復をしたりする展開を常に探っている状況です。

辻課長、今後のクラウドファンディングの活用で具体的な事案はありますか。

辻課長 志賀直哉邸の書斎の修復でクラウドファンディング運営会社の人と話をするなかでは、ただやればいいものではなく、ある程度名前のおったものや背景やストーリーがあったものを実施した方がいいです。とのことでしたが。また期間的な目標や目的が明確にすると寄付された方の達成感が図れるようです。このような視点で見ると、我孫子で言えば白樺派の話、刀剣、縄文土器などは見て触って実感できます。以上のような、何か達成感のあるものを選び出すと良いと考えています。

会長 志賀直哉、日本刀とか、そういう分野だと確かにありますね。

藤代委員 今回は中間報告ですから前期の計画の成果というところで、14 ページにもありますが、やはり財源がない中、様々な工夫をしてお茶会、古民家ヨガなどに取り組んでイベントと文化財の良さを併せてPR しているのはとても効果があると思いますので、引き続き後期も文化・スポーツ課と秘書広報課も一緒になってPR していきます。お互い連携して取り組んでいきたいと思います。

事務局 心強い意見をありがとうございます。では秋田委員お願いします。

秋田委員 文化財と観光は切っても切れない関係です。商業観光課で所管しています観光情報センターアビシルベでも指定管理者が独自に情報を入手したり、我々から情報提供したものをX で発信したりしています。発信するものの中には、レンタサイクルのマップ、イベントもあります。今回12月からスマートサイクルと言って、スマートフォンで自転車の貸し借りができるようなシステムを導入します。それに併せて観光ポータルサイトを開設しますので、今後より加速度的に連携できるように進めていければと思っています。以上です。

会長 ありがとうございます。辻課長。

辻課長 旧井上家住宅を今後整備活用する際に、地方創生の交付金等を活用するということを念頭に置いたときに、やはり地域計画を作った方がおそらく有利に進められるであろうという企画サイドからの提言から、我孫子市文化財保存活用地域計画を策定するきっかけになりました。その際、千葉県吉野さんからご助言いただいたのですが、非常に印象的だったのが、我孫子市って千葉県内でもこれだけ個性の強い文化財を持っているのに、割と内向きですよ、アクセルをもっと踏んだ方がいいということを言われたことです。

あとは実際にこの計画を作っていく過程の中で、一つは文化財の担当者が自分たち

の仕事の期間、目的、対象が見える化はできたことが非常に大きいです。また今まで私達が関わった文化財のことに対する、やりたいこと、できることを盛り込んでいます。蓋開けてみたら財政事情・社会情勢のために実行できないこともあります。ただ、そのなかでもやっぱり理念は高く旗を挙げて我孫子市のクオリティを上げるために、この計画は本当に必要だと改めて思います。

それから市民との協働です。この計画作りの際に行うワークショップを通して、その地域での協力者を取り組む必要がありましたが、我孫子市はどちらかというと計画を先に作って後から皆さんに参画していただくというスタイルになっています。今後は市民の方々をいかに多く取り込んでこの計画を実のあるものにしていくのが課題になるかと思しますので、また皆様には引き続きご意見をいただきたいと考えています。

会長 ありがとうございます。中村委員お願いします。

中村委員 この計画を作るなかで、物語性を私は非常に重視しています。我孫子の歴史を考えると、縄文時代から今まで、貴重な文化財がたくさんあることに気がつきました。これを活用する方法がないのかと思います。例えば我孫子と言えば手賀沼だけというイメージしか他の地域に住んでいる人はないと思いますが、そうではなく文化性、自然が豊かだと思えます。先ほど外国人の話をしました、外国人が我孫子を見ましても、手賀沼を見て自分の国の地域と似ているところがあると聞きます。風景で親近感を非常に持ってくれる方もいます。

私は特に文化財活用に重きを置いていきたいと思えます。そういう点で文化財の担当者の方は他に仕事もあるなかで、これだけまとめたと思えますが、やっぱり我孫子市ないしはこの地域の発展、文化財や歴史を未来に繋ぐためには、中心となって頑張っていたいただきたいと思えました。

会長 ありがとうございます。福田委員お願いします。

福田委員 私も繰り返しになりますが、活用がなかなか難しいと思えます。計画したので活用できる、取り組みが順調であることが活用につながるわけではなく、難しいところもあります。誘導板・案内板も設置すればよいのではなく、それが本当に活用を促進するものであるか、見直しを行いながら進めていく必要があると思えます。

会長 はい。ありがとうございます。それでは最後大内さんからご助言をお願いします。

県 まず中間評価ということで確認ですが、こちらの中間評価は計画の方で当初、中間で4年経過した時点で事業の進捗状況の確認と中間評価を行うことを定められていま

すが、結局今回の中間評価を実施した上で計画表計画の変更等はないということで、よろしかったでしょうか？ はい、わかりました。

それで評価に関しましては自己評価ですので、一つ中間評価に関しての感想としましては、福田委員が再三おっしゃっているとおりです。基本的にはA評価B評価C評価と自己評価していますが、評価したものに関して、基本的に着手をしたという評価になりますので、その着手したものの結果としての成果内容が具体的にどのように受け取られているかとか、内容の精査をしていく必要があるかと思えます。

表記の方法については、着手ベースで評価していることであれば、矢印は実行しているところは黒線で、着手予定は点線に変更するとわかりやすいかと思えます。

中間評価でC評価の内容について辻委員が整理されていたと思いますが、C評価は基本的には施設整備の部分と、情報発信の部分二つが大きな課題として見えてきたと思われま。施設整備に関しましては河井委員がおっしゃるとおり、財源の問題が確実に存在しますので、着手できないことは止むを得ない部分だと思えます。しかし、そのなかでも最優先に着手する必要がある施設は、この計画のなかでも非常にたくさんあるので、我孫子市として取り組んでいく施設の優先順位は考えていくべきと思えました。

今回、計画で策定した物語が徐々に観光に使われていることも進んできているかと思えます。特に水の物語のエリアは観光のコンテンツで重点に進めていく方向性が見えてきていると思えますので、施設も絡めて整備していく必要がありますので、自然と優先順位も見えてくると思っています。我孫子市の特徴、珍しい文化財がたくさんあると私も本当にそう思えます。

特に文学系の施設・コンテンツを持っているような自治体はかなり珍しいと思えますし、非常に我孫子市らしさに繋がっていると計画を見て改めて思いました。やはりこの計画をベースにして、改めて観光、地域作りを含めて優先して整備していくことにも繋がっていくとよいのではと思えます。

情報発信に関しましては、担当の部署だけではなく、観光部署の方もかなり情報発信されているとお伺いしましたので、むしろそちらの方に情報を提供する・相談をしながら発信してもらう方向で考えていけばいいのではと思っていました。担当部署でなかなかできてないことも連携して、観光・広報の方で発信する方法もあり得ると思えました。

全体の話のなかでは、我孫子遺産について若い人たちにも関わりを持っていただきたいというような話について、我孫子市内にある大学との連携は模索する必要があるかと思えます。関わり方については様々な方法があると思えますが、市川にある千葉商大さんでは文化財に基づいた観光、地域作りのワークショップを研究室が地域に実際に入って一緒に行っている事例もあるので、大学が地域作り、観光などの勉強をするフィールドとして我孫子市の具体的なものを使うこともあるかと思えます。

この地域計画の良いところはいわゆる我々がかつて扱っていた文化財だけではな

く、もう少し幅広く地域に存在する宝物を含めた保存と活用の計画になります。計画を作るなかで我孫子の良いところを整理した形で見えてきたと思います。専門家・専門職員が見えなかった、すっきり見えなかったところが整理したことにより見えてきたのは非常に良いことだと思います。計画を活かしながら、今後我孫子市の魅力が高まるようになればと思っています。

文化や文化財は生きる上では必要ないものかも知れませんが、人はパンのみで生きるにあらず、であります、文学・文化の香りがする場所に暮らしたいと思わせるコンテンツがたくさんある場所だと思います。文化のベースがある町で暮らしていくことが心の豊かさに繋がっていくというPRが市全体として活動に繋がっていくと良いかと思いました。

会長 どうもありがとうございました。手賀沼の景色を見て、文人が我孫子に集まったという話も聞くと我孫子に愛着が出てきます。私もここに関わってから、我孫子と銚子の計画が認定された際、嬉しかったし、最近の話では、ノーベル平和賞を受けたことで被爆者の会の方に手賀沼公園の平和祈念碑のことを話したら嬉しいですよ、話をしています。祈念碑も文化財の一つとして活用していくことも必要だと思ったところです。

事務局 はい。今後の協議会の運営についてですが、当初この協議会は計画を策定するために立ち上げて令和2年度に無事計画が策定されました。策定後は次年度予算等に反映させるために前期に1回、進捗報告のために後期に1回行っていましたが見直し後である令和7年度以降の協議会開催のスケジュールは来年度の進捗報告1回にしたいと考えております。

この件についてご意見いただければと思います。

会長 来年度からこの会議が1回という今事務局からの提案です。私個人的には反対ですが、他いかがでしょうか？

中村委員 私は計画を作るというのが終わったし、進捗状況もかなり綿密に把握されているので1回の報告でいいと思います。今回この資料も早くいただいたとき、検討できたので、資料を見る時間があれば1回の協議会のなかで要望を話せると思います。逆に2回あると前回と重複しそうな気がします。

会長 福田委員いかがですか。

福田委員 私も中村委員と同じで、少し早めに資料をいただいてゆっくり読む時間ください

て、年1回でじっくりお話し合いができればと思います。よろしく申し上げます。

会長 私個人的には年2回あって、布佐南小学校の施設見学など、自分自身も勉強になりましたが1回が多数ですね。事務局の方からお願いします。

事務局 長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。以上で令和6年度第1回我孫子市文化財保存活用地域計画協議会を終わります。どうもありがとうございました。